

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞

税の今後

深谷市立藤沢中学校 三年 嶋村 直登

今、税が危機に瀕している。現在、私達の身の回りには、税の恩恵が溢れかえっているといいだろう。手を伸ばせば教科書がある。一步外に出れば道路がある。進んでいけば標識がある。信号がある、校舎、校庭、公園がある。これらは全て働いている方の税金によって賄われている。けれど昨今では、この税金という大変優れている制度が窮地に追い込まれつつあるのではないだろうか。

今夏、私は議会議員となった。自分の住む市町村の主催する子供議会と言う選挙不要の議員である。そこで、市立の小中学校全部に冷房を設置して欲しい、という意見が出されたが、教育委員会の方からは、「難しいだろう」との消極的な答弁が返ってきた。予算が無いことがその原因として挙げられた。国から支給される地方交付税交付金という市への補助金が毎年少なくなっていること、私が社会科の授業で学習した少子高齢化が、この市町村にも例外なく影響を与え支出が増加を辿り、さらにはテレビでよく耳にするようになった不景気と言うものも相俟って、大変財政が窮乏した状況になっているようだ。市町村合併でもしなくては、現在のサービスの維持も困難であるという。最近国でも税の逼迫を受け、公的な機関を民営化しようとの動きも盛んであり、もう税も限界のところまで来ているのではないかと思う。

しかし、私としては、そんな事情があるにしても税への願いがある。今夏は地球温暖化現象や何々現象というものの所為で教室が三十八度を越して、授業や考査どころではないので教室に冷房が欲しい。もっと至る所に遊び場である公園が欲しい。もっと図書館の蔵書数を増やして新しい本をたくさん欲しい。他にもいろいろなサービスを実施して欲しいし、さらに社会資本も充実させて欲しい。そしてそのためには、単なる増税でなく10・5・3・1(トー・ゴ・サン・ピン)と呼ばれている、納税率が10割の会社員のように、5割の自営業、3割の農家、1割の政治家もきちんと税金を払ってもらう必要があるようだ。また、無闇に公債を発行しても利子がきつく、悪循環に陥るだけなので返済できる見込みのない公債はやめるべきである。

時代の変遷に伴って、税のありようも大きく変わっていく必要があるだろう。しかし、税という制度だけは決してなくしてはならない。なぜなら、私達は、税に自分たちの生活をもっと豊かに、快適に、住みやすくして欲しい、という期待を託しているからだ。もし、税がなくなったら社会は荒廃してしまうだろう。この、期待、希望に沿える様にこそ税金は使われていて欲しい。そして、将来大人になったら、期待を叶えるためにきちんと納税をしていきたいと考える。